

# かながわの風

13  
2016 Autumn

編集・発行  公益社団法人神奈川県社会福祉士会 <http://www.kacsw.or.jp>

## 社会福祉士として “ソーシャルワーカーの使命”を考える

公益社団法人神奈川県社会福祉士会  
副会長 隅河内 司

県民の皆さま、会員のみなさまに日頃から本会の活動にご理解ご支援をいただきまして深く感謝申し上げます。

さて、昨年9月、国が示した「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」では、「全世代・全対象を受け止める相談体制の整備」「高齢、障害、児童等への総合的な支援の提供」「効果的・効率的なサービス提供のため生産性向上」「総合的な人材の育成・確保」の4つの改革が打ち出されました。今後は、包括的な相談支援システムの構築に向けて、ネットワーク強化や社会資源開発などのソーシャルワーク機能の充実が必要となることから、その実践を担う社会福祉士への期待も大きくなっています。こうした流れの中で、社会福祉士は何を大切に、何を自らの行動の拠りどころとして、どこに向かっていくのか、改めてその使命を考えてみます。

2014年に改定された国際ソーシャルワーク連盟のグローバル定義では、ソーシャルワーク専門職の中核となる「任務」としては、社会変革、社会開発・社会的結束の促進、および人々のエンパワメントと解放が示されており、抑圧や特権の構造的障壁の解消に取り組むため、専門職は不利な立場にある人と連帯しつつ、貧困を軽減し、抑圧された人々を解放し、社会的包摂と社会的結束の促進に努めなければならないとされています。また、社会開発という概念は、持続可能な発展をめざし、関係機関・団体、専門職間の協働を統合することによって実現するもので、更には社会構造的かつ経済的な開発に優先するもので、「経済成長こそが社会開発の前提条件である」という従来の考え方には賛同しない。」と謳われています。

こうしたことから、ソーシャルワークを私なりに整理すると、個人や家族が抱える課題を解決するための支援や、社会的差別や地域社会からの排除を克服するための働きかけを通して、社会構造や社会システムを変革し、新自由主義や市場原理至上主義を越えた社会の姿を創造するものではないかと考えております。

先日、某大学の海外研修に同行し、韓国の研究者や社会福祉士と意見交換する機会を得ました。その言動や考え方に韓国社会のパワフルさを実感したわけですが、なぜ、そんなに積極的なのかと尋ねたところ、「反独裁民主化運動の中で、声をあげて、行動すれば変わるということを感じているから」との答えが返ってきました。このことは、目標に向かってダイナミックに行動することの重要性について、私たちに一つの示唆を与えてくれるものではないでしょうか。

今、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士に求められているのは、新自由主義的政策の枠組みの中に埋没し、思考を止め、与えられた制度の中でサービスの調整に終始するのではなく、個々の生活問題を現実の社会構造に引き付けて、それを社会問題として捉えるダイナミズムを基底にして、県民の皆さまや地域の皆さまと連帯して活動することです。本会はそうした活動の先頭に立って大きな流れを作り出すことに注力してまいりたいと思っています。

今後も本会の活動にご理解ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



### CONTENTS

- 02 【特集】日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（愛媛大会）
- 04 自殺対策委員会の活動
- 05 ソーシャルワーカーデー in 神奈川 2016
- 06 平成28年度理事会報告
- 07 たまひよ紀行
- 08 公開講座&研修会・情報コーナー・編集後記



# 第24回 日本社会福祉士会全国

第24回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会が愛媛県松山市のひめぎんホールをメイン会場として7月2日・3日の2日間開催されました。全国から1000人を超える参加者がありました。



全体会会場の様子

「『生きる』を支える～社会福祉士の可能性」をテーマに開催された今回の大会。基調講演では、村木厚子さんが「共に生きる社会を創る」をテーマに、元厚生労働事務次官の立場から、日本の財政や高齢化の現状を踏まえて話しました。なかでも子どもの貧困に対しては、風俗産業が未成年者に居場所を与えてしまっている現状を「福祉が負けている」と表現し、制度の狭間で活躍すべきは社会福祉士であると呼びかけました。



大会マスコットのみきゃん



分科会の様子

最後に次回開催県の福島県に引き継がれ、また一年間の社会福祉士としての活躍の決意を新たにしました。

# 大会・社会福祉士学会（愛媛大会）

## 第24回 日本社会福祉士会全国大会 社会福祉士学会 愛媛大会に参加して

### 実践研究 分科会

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 地域連携センター総合相談医療福祉室 MSW 藤田 昌子

私は三次救急の医療現場のMSWとして働いています。MSWとして働く前は障害者、児童、高齢者の福祉の現場で働いてきました。MSWとしては13年目となりますが、三次救急の現場は4年目です。

全国大会で発表するチャンスを与えてくれたのは上司の一言でした。それは、連携病院との勉強会で事例発表を行ったことがきっかけとなり、全国大会で発表してみないかという提案でした。日本社会福祉士会の全国大会に参加したことのない私が学会発表？そんなの無理～！と思いましたが、上司が「あなたがやってきたことを発表すればいいだけ」と背中を押してくれました。日々の取り組みや実践を振り返り、上司と共同研究発表することで社会福祉士としてステップアップしたいという気持ちになりました。

“「生きる」を支える”というテーマに基づき、分科会では「精神科病床を有さない三次救急の医療現場における自殺未遂者支援の実践」について報告して参りました。

早期退院を求められる中でクライアントの自己実現を目指し、関係機関との地域カンファレンスを重ねることで理解を求め、連携しながら支援を行いました。

今回の発表は大変貴重な経験となったと同時に、まだまだ勉強を積み重ねなければと、認定社会福祉士、認定精神保健福祉士、救急認定ソーシャルワーカー取得という新たな目標もできました。

先祖の地である愛媛全国大会に参加し、道後温泉で癒やされ、正岡子規や夏目漱石の文学に触れ、四国八十八箇所石手寺を参拝してパワーと御朱印をいただき大変有意義な2日間でした。

今後も、神奈川県社会福祉士会の研修会に参加し、様々な分野で活躍する社会福祉士の方々と共に学び、視野を広げ、支え合いながら一歩ずつ前進していくつもりです。

最後になりますが、実行委員会スタッフの皆さまには大変お世話になりました。

心より御礼申し上げます。

### 地域支援 分科会

泊江市教育研究所 スクールソーシャルワーカー 濱田 さやか

第24回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会にて「老人クラブの活動にみる地域福祉の推進力～老人クラブリーダーの活動観の抽出～」と題しまして報告をさせていただく機会を得ることができましたので、4人の研究者を代表してその内容について紹介させていただきます。

少子高齢化、人間関係の希薄化といった地域の問題が複雑化する中で、私たち社会福祉士が活動するにあたり、高齢者との関わりは欠かせません。そこで、民生委員や自治会長などとして地域で活動する高齢者の多くが所属する、「老人クラブ」の活動について、横浜支部主催の研修において、実際に、ある老人クラブの食事会の場にて半構造化インタビューを実施し、分析・評価を行うことでそれが地域福祉の推進につながっているかということを示すことができました。分析の際には複数の参加者でSCATの手法を用いてインタビュー内容のテキストから、参加のきっかけや活動への意識を抽出しました。結果、4つの項目①クラブを超えた繋がり②ニーズ

に合った声掛け。②様々な経験をもつ会員への感謝と期待、そして協働。③運営側と参加者両方が楽しむことの大切さ。④地域のなかで経験を活かし、貢献することによる楽しみややりがい、というものが抽出されました。その考察過程において、会員として、地域の一住民としての使命感から、喜んでもらった、経験を生かすことができたという実感が、さらなる活動の原動力となっているという「発展型のループ」を発見することができました。最後に結論としては、熱心な老人クラブの活動について①地域の活動に注力する人たちが豊富な経験や繋がりを総導入したものであり、良循環を生み出している。②共助的、利他的な意義を持つ実践であり、地域福祉の推進力となるものである。③課題に向き合うためには、地域の関係機関や我々社会福祉士等の専門職との更なる協力体制が必要である、という3点に至りました。（そこで調査における時間と対象者には限界があり、さらにこれ以降も地域での調査、分析を深めていくことで、貢献へとつなげていきたいと考えております。）

（上に述べた研修は「コミュニティソーシャルワーク実践講座」につきましては、横浜支部主催の研修ではありませんが遠くは埼玉から参加する研修生も受け入れてくださる暖かさ、そして支部総会の場で、研修の報告の機会を設けてくださる寛容さに感謝申し上げます。）

# 自殺対策委員会の活動

担当理事 菅野 善也

平成18年に施行された自殺対策基本法に基づき、平成19年に神奈川県「かながわ自殺総合対策指針」に則って事業化された基金を通じて、平成23年より本会においてゲートキーパー養成研修と包括相談会として「こころの健康・福祉・法律無料相談会」を実施してきました。

ゲートキーパーの養成に関しましては、平成23年より4年間を通じ延べにして739名が受講しその内、223名の方が「上級研修」を修了されています。その方々を中心にその後開催されている「包括相談会」や、各自治体で開催される自殺防止月間などで相談員として多職種（医師、弁護士、司法書士、精神保健福祉士など）との連携のもと、実践的な活動を進めております。

我が国における自殺者の人数は平成23年まで3万人を超えていましたが、平成24年以降減少傾向にあります。これは、平成23年に発生した東日本大震災によるものといわれたりしていますが、この年度以降、長年3万人を切らなかった数が、本年では2万7千人台という数字になってきています。しかし、交通事故死の数と比較しても5倍以上の数が自ら命を断つ実態は、私たちは、身近な事として捉えてソーシャルワーカーとして何らかのアクションを起こしていかなければならないと思います。

今年度より、養成研修を修了した方を中心として「相談者の集い（HTH）」という集まりをスタートさせ、実際の相談に際しての取り組み方などフォローアップ的な目的で「自殺予防相談員」の実践的な養成も開始し、25名の方が修了登録がされました。

また、行政との連携も模索する中、横浜市瀬谷区主催の「ゲートキーパー養成研修」への講師派遣を行い、一般市民向けの講座を行いました。この他にも、多職種との連携を行い、神奈川県内で開催された包括相談会へ相談員派遣など多くの活動が行われています。

次年度以降は、実際の自殺未遂者と関係の深い病院との連携を深め、他団体でも取り組みのある「ベッドサイド」での支援から、私たちソーシャルワーカーの活動範囲として言える「地域で支える」事で自死念慮の方への寄り添い支援によって、自殺企図の方を一人でも減らす為の取り組みとしての検討も始めております。

自殺対策という取り組みは、とても難しく誰にでも出来るものではないと感じてしまいがちですが、常に「傾聴」する姿勢が求められる私たちソーシャルワーカーの活動として、むしろ取り組まなければならない身近な活動ではないかと思っております。県内各支部を中心に各地で取り組みが広がるよう、皆様のご協力をお願い致します。





## ソーシャルワーカーデー **i**n 神奈川 2016

ソーシャルワーカーデーin神奈川が、7月16日(土)に神奈川県社会福祉会館で開催されました。今回のテーマは「『現代社会に求められる福祉の視点』～ソーシャルワーカーに期待すること～」として、社会福祉士会、介護福祉士会、精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会のそれぞれの現場から実践報告がありました。

基調講演では法政大学現代福祉学部教授の湯浅誠さんが、最近発達が目覚ましく様々な分野で注目されている人工知能(AI)を例に挙げ、人間の仕事の多くはコンピューターがするようになるが、ソ

シャルワーカーの仕事はコンピューターにはできないと語り、ルールや制度で決められないような、ソーシャルアクションこそがソーシャルワーカーに期待されているとメッセージを送りました。

会場には、ソーシャルワーカーの他、県内の学生も参加しており、総勢200名を超える参加者が集まりました。ソーシャルワーカーの活動を広めるとともに、私たちも様々なことに気づき、元気づけられる集会になりました。



# <平成28年度理事会報告>

## □第1回理事会 平成28年4月23日(土) 9時30分～11時40分神奈川県社会福祉会館 1階 第3会議室

議長山下会長、理事出席10名、議事録署名人：浅見理事、佐藤理事、江原監事

### <審議事項>

第1号議案 入退会審査について 承認

第2号議案 2災害ネットワーク参加(前回理事会継続審議事項)について継続審議として保留

※熊本地震について以下を承認

①被災者の口腔ケアに関する支援として「オーラルピース」(歯磨粉)送付を行う。

②募金を行う。受付期限は7月末とする。HPに案内掲載。

③現時点では本会に災害対策本部は設置しない。必要があればその都度検討。

第3号議案 後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦の状況について 承認

第4号議案 2016年度成年後見人養成研修(委託集合研修)の業務委託契約について 承認

第5号議案 2016年度生活保護社会的居場所づくり事業 厚木業務委託契約について 承認

第6号議案 2016年度秦野市生活保護受給者就労準備支援事業委託業務契約について 承認

第7号議案 2016年度神奈川県介護支援専門員実務研修受講試験受験審査業務の委託について 承認

第8号議案 2016年度支部活動費について 承認

第9号議案 県央支部役員追加について 承認

第10号議案 2016年度ばあとなあ神奈川成年後見相談員の委嘱について 承認

第11号議案 規則類改正について 公益福祉局運営規則改正、就業規則改正 承認

### <協議事項>(各協議事項について了承)

①2016年度理事体制(役割分担)について ②代議員総会について(講演会等内容検討)

その他 神奈川県弁護士会11土業合同相談会後援及び相談担当者派遣依頼について

### <報告事項>(各報告事項について了承)

①各事業部委員会2ヶ月事業報告について ②各支部2ヶ月事業報告について ③各推薦後援状況について

④臨時理事会(第12回議事録)について その他・各支部全体会への出席の確認

## □臨時理事会 平成28年5月20日(金) 19時～20時45分神奈川県社会福祉会館 1階 第3会議室

議長山下会長、理事出席10名、議事録署名人：一色理事、鈴木理事、江原監事

### 審議事項(一部審議順序に変更)

第1号議案 入退会審査について 承認

第2号議案 2015年度事業報告案について 承認

第3号議案 2015年度決算報告案について 承認

第4号議案 2016年度生活保護社会的居場所づくり事業(小田原)業務委託契約について 承認

第5号議案 2016年度神奈川県地域生活定着支援センター事業業務委託契約について 承認

第6号議案 ばあとなあ神奈川名簿登載の審査について 承認

第7号議案 任意後見マニュアル案および任意後見審査委員会運営に関する細則案について継続審議として承認

第8号議案 成年後見人養成研修受講決定について 承認

第9号議案 代議員総会議事について 議事講師確認 承認

第10号議案 地域定着支援センター非常勤職員のフレックスタイム制に関する細則改正案について 承認

第11号議案 神奈川県社会福祉士会費弁済規則改正案について 承認

第12号議案 2016年度ホームレス等一時生活支援事業(はばたき)実施委託契約について 承認

### <協議事項>(各協議事項について了承)

①2016年度理事体制(役割分担)の確認について ②代議員総会について

### <報告事項>(各報告事項について了承)

①各推薦後援状況について ②第1回通常理事会議事録について ③ばあとなあ神奈川名簿登録及び推薦状況について

④神奈川県社会福祉士会謝金支払い基準について ⑤神奈川県社会福祉士会期末手当支給の基準について(作成検討経過報告)

⑥監査報告について ⑦2016年度職員体制一覧(5月20日現在)確認について



# たまひよ紀行

参加者の  
声



「たまひよくらぶ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日の浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、川崎支部と相模原支部で開催された交流会をご報告します。

## たまひよくらぶ@かわさき

落合 優

私は今年の4月から施設で介護職員として働いています。

それまでは大学で社会福祉士の受験資格だけ得て、卒業後は別の業界で働いていました。しかしやはり福祉業界で働きたいと考え、介護の訓練校と並行して社会福祉士の受験を決めました。周りの人に支えられ、第28回の試験で合格しました。その後、社会福祉士会の登録を調べていたところホームページで「たまひよ」の募集を見つけました。

現在、社会福祉士の方とあまり交流がない私は、他の社会福祉士の方が「今、興味・関心を持っていること」「今取り組んでいること」に興味がありました。そこで早速、7月15日に行われた「たまひよ」に申し込みました。当日まではどのような方々が参加されるのかとても緊張していましたが運営の方々やひよこの方々と楽しく交流させていただきました。

参加されていた社会福祉士の方々は皆さん福祉に対する造詣が深く、自分の勉強不足を痛感しました。そして、社会福祉士になって1年目の私に今できることは様々なことに興味関心を持ち、一つ一つ学んで行くことだと感じました。

これから日々の仕事や、社会福祉士の基礎研修などを通して、社会福祉士として成長を続けていきたいと思っています。



## たまひよくらぶ@さがみはら

相模原支部では、9月2日 ポーノ相模大野にある「南区地域福祉交流ラウンジ」にてたまひよくらぶ@さがみはらを開催しました。

当日は8名のたまひよの方が参加されました。

今回は「社会福祉士になろうと思ったきっかけ」「社会福祉士であれば、今、どのような仕事をしているのか」「試験勉強のコツ」等について語り合うことができました。

### 参加者の声の一部を紹介します

「実際に取得した方の話を聞いてとても勉強になり安心した」「社会福祉職といっても、いろいろな方がいて、いろいろな話が聞けました」「幅広い専門の方と交流がもてて楽しかったです」

また、参加者の声より、たまひよくらぶに期待していることの一部を紹介します。

「社会福祉士会や会の活動を知りたい」「いろいろ分野の社会福祉士の話を聞きたい」「つながりを作りたい」「研修など自己研さん」「試験時について、勉強の方法」

今回、印象に残ったことは、試験勉強時の「知識」や、現場に入り学ぶ「知識」は、現場で頑張っている支援者を支えているということ、そして、たまひよくらぶや会の活動に参加することで、結果、社会福祉士の専門性の向上につながるきっかけになるということでした。



月	日	開始時間	終了時間	研修・講座等	概要	場所	主催	対象	費用
11	26	10:00	13:00	コミュニティソーシャルワーク実践講座 第3回	第2回(地域でのインタビュー)の報告、まとめ解説	西区福祉保健活動拠点「フクシア」	横浜支部	当研修に賛同し、全8回を申し込んだ方	全8回 8000円
12	11	10:00	13:00	コミュニティソーシャルワーク実践講座 第4回	地域向け報告会の準備(分析など)	中区福祉保健活動拠点	横浜支部	当研修に賛同し、全8回を申し込んだ方	全8回 8000円
1	8	12:00	16:00	コミュニティソーシャルワーク実践講座 第5回	地域向け報告会の準備(資料作成など)	中区福祉保健活動拠点	横浜支部	当研修に賛同し、全8回を申し込んだ方	全8回 8000円
2	未	未定	未定	コミュニティソーシャルワーク実践講座 第6回	地域向け報告会	港南区内	横浜支部	報告会の聴講は誰でも可	報告会の聴講は無料

## 生活困窮者支援ネットワーク委員会

児童虐待を止めるために ～私たちに何が出来るだろう～

長年大阪市の児童相談所で活躍されていた津崎哲郎氏(NPO法人児童虐待防止協会 理事長)をお呼びし、児童虐待に関する講演会を開催いたします。

また、児童相談所の現状を児童相談所の職員からもお話をうかがいます。本会では、児童虐待の現状を発信するとともに、広く県民の皆様にも子どもたちが夢と希望をもって成長していける社会が実現できるように取り組んでいます。

**開催日** 2016年12月11日 日曜日

(※時間は内容をご覧ください)

**場 所** パシフィコ横浜会議センター3階 303・304

**内 容** 10時30分～ 児童虐待に関するビデオ上映  
「児童相談所の現状」児童相談所職員による講演  
14時～ 津崎哲郎氏による講演会  
本多洋実氏(神奈川県里親会会長)講演会

**その他** 定員300名で入場無料。手話通訳があります。  
事前予約が必要ですが、保育の無料サービスも提供します。

※詳しい内容やお申込みは、チラシ案内やホームページをご覧ください。

## 生涯研修センターよりお知らせ

今年度も実践発表大会を開催します。

今年度は、2017年3月4日土曜日に実践発表大会を開催いたします。開催に先立ち、11月半ばより実践発表大会の演題4題を募集いたします。詳しくは、ホームページに掲載予定の要項をご覧ください。日頃の福祉実践を発表するいい機会になります。ぜひお申し込みください。

### 生涯研修センター主催研修の予定

日 時	場 所	内 容	講 師
12月3日土曜日 9時30分～	ウィリング横浜 501研修室	社会福祉士の 専門性とは何か?	菊池 健志氏
3月4日土曜日 午後	ウィリング横浜 501研修室	実践発表大会	—

## 編集後記

早いものでまだ11月だというのに、本年の「最終号」の発行となった。今年を振り返るには、いささか早い気がするが記憶をたどることにする。

1月のスキーバス転落事故にはじまり、4月の熊本地震、8月の台風による水害、10月の阿蘇山噴火、鳥取県中部地震など、暗い記憶が次々と思い起こされる。1月発行の小冊子「皆様の心に幸せな記憶だけが降り積もる1年でありますように」と綴った「悲しい記憶」の星が勝ってしまったようにも感じる。文藝春秋社を創設した実業家でもある小説家の菊池寛は次のような句を残

している。「死者老いず生者老いゆく恨みな。亡くなられた方々はその時の笑顔のまま、写真や残された者の心の中で生き続けるに違いない。時の流れは美しく、また時に残酷なものもあるらしい……。京都では「日にち羹」(時が癒してくれるという意)という言葉もあるようですが、失われた悲しみは時が経っても癒されるものではないのだろう……。

忘れたい事と忘れてはいけない事、様々な想いを乗せてスタートした1年があと四十と幾日かで終わりを迎える。少しお早目ではありますが、来年こそ皆様の心に「幸せな」記憶だけが降り積もる1年であることをお祈りし、今号を締めくくりたいと思う。(広報委員長：日向 明)